

2020年度 第2回日本肺高血圧・肺循環学会理事会 議事録

日時：9月25日（金曜）16時30分～17時30分

場所：Zoom 開催

出席理事：巽浩一郎、伊藤浩、伊藤正明、江本憲昭、荻野均、桑名正隆、小垣滋豊、近藤博康、佐藤徹、下川宏明、瀧原圭子、伊達洋至、田中住明、辻野一三、土井庄三郎、中山智孝、福田恵一、福本義弘、室原豊明、松原広己、安岡秀剛、渡邊裕司 22名

議題

報告事項

1. 第5回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 9月26日（土曜）～9月27日（日曜）

準備状況 荻野均 会長

学術集会YIA（基礎）審査委員：三谷義英、小垣滋豊、渡邊裕司、田邊信宏

Interleukin-21阻害による肺動脈性肺高血圧症の新規治療法開発

国立循環器病研究センター 稲垣薫克（最優秀賞）

JAK2V617Fクローン性造血はALK1を介して肺高血圧症を増悪させる

福島県立医科大学医学部 君島勇輔

三次元イメージングで解き明かす肺高血圧症の微小血管新生の意義

東京大学医学部附属病院 藤原隆行

学術集会YIA（臨床）審査委員：片岡雅晴、田中住明、大郷剛、坂尾誠一郎

急性肺血管拡張反応試験陽性例における予後検討

熊本大学病院 平川今日子（最優秀賞）

ASD-PAHに対するTreat and Repair strategyの有効性

国立循環器病研究センター 中山小百合

3群PHにおける右室機能障害および予後との関連

北海道大学病院 島秀起

2. 第6回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会準備状況 土井庄三郎 会長

3. 新評議員の推薦

安田聡（東北大学大学院医学系研究科循環器内科学分野 教授）

4. 2020年度八巻賞

阿部弘太郎（あべ こうたろう）（九州大学病院 循環器内科）

肺動脈性肺高血圧症の閉塞性血管病変と右心不全進展機序に関する基礎研究

慢性血栓塞栓性肺高血圧症に関する多施設レジストリの構築研究

大郷剛（おおご たけし）（国立循環器病センター心臓血管内科部門肺循環科、肺高血圧先端医学研究部）

慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する肺動脈バルーン形成術のエビデンス構築

5. 2020年度学会奨励賞 臨床研究賞

加藤将（かとう まさる）（北海道大学病院内科II）

膠原病性肺動脈性肺高血圧症における特異的な臨床像の解析および早期診断、治療、評価法に関する研究

須田理香（すだ りか）（千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学）

組織低酸素を防ぐための肺高血圧症酸素療法に関する検討

平出貴裕（ひらいで たかひろ）（慶應義塾大学医学部 循環器内科）

日本人特有のゲノム変異に基づく肺動脈性肺高血圧症の病態解明と新規疾患概念の提唱

6. 2020年度学会奨励賞 基礎研究賞

黒澤亮（くろさわ りょう）東北大学大学院医学系研究科 循環器内科学
化合物スクリーニングによる新規肺高血圧症治療薬Celastramycinの発見

西村倫太郎（にしむら りんたろう）千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学
肺高血圧症モデルにおける肺血管内皮細胞の増殖能・形質転換の解析

7. 渡邊裕司 学会承認の研究成果報告

Clinical evaluation of drug–drug interactions between the cytochrome P450 substrates selexipag and clopidogrel in Japanese volunteers 論文

British Journal of Clinical Pharmacology (Impact factor:3.74) への採択

8. 2020年度肺高血圧症webセミナー予定 2017年度GSK医学教育事業助成による

学会HPの右上【会員ページ】から視聴可能

複数の原因を有する肺高血圧症について診断と治療を考える（10月27日）

久留米大学医学部 心臓・血管内科 福本義弘

肺高血圧症の多様性と病態を踏まえた治療戦略（10月28日）

国立循環器病センター 肺循環科 大郷剛

肺高血圧症および右心不全の診断法と治療 ～基礎と臨床～（10月29日）

九州大学病院 循環器内科 阿部弘太郎

9. 肺高血圧症診療ガイドライン

特発性／遺伝性肺動脈性肺高血圧症 診療ガイドライン Minds認定

10. 学会HPの「患者の皆様へ 肺高血圧症診療を受けられる施設」バナー

1)肺動脈性肺高血圧症の診療施設、2)肺疾患に伴う肺高血圧症の診療施設、3)慢性血栓塞栓性肺高血圧症の診療施設という3つのサブバナーを、現在学会承認されているレジストリーに合わせて設定

1) 肺動脈性肺高血圧症の診療施設 ➡ 国際医療福祉大学 田村雄一

2) 肺疾患に伴う肺高血圧症の診療施設 ➡ 千葉大学 田邊信宏

3) 慢性血栓塞栓性肺高血圧症 ➡ 九州大学 阿部弘太郎

が管理責任者となり運営している。

掲載する施設一覧に関しては以下の規準とする。

●必要条件として、肺高血圧症患者レジストリー JAPHR に登録してある施設

（学会 HP の JAPHR のバナーをクリックして頂くと一覧が見えます）

（I 群、III 群、IV 群で見せ方が異なっておりますが、統一可能かどうかをレジストリー責任者と相談）。

●学会 HP に掲載するので、十分条件として、肺高血圧症患者レジストリー JAPHR のベースライン、フォローアップデータの双方を入力してある施設 とする。

施設名を掲載して、関連サイトをクリックすると、PH 診療を担当している診療科の HP に飛び形になる。

施設更新作業に関しては2カ月に1回くらいを目安。

PH診療専門医に関して、現時点では学会としては特に認定しない（各施設でPH診療担当医を表示することは自由）

●小児肺高血圧症の診療施設 ➡ 災害医療センター 土井庄三郎が学会理事および小児肺循環学会理事と相談の上、小児PH領域で共通認識のある小児肺高血圧症領域診療可能な11施設を学会HPに掲載する。

審議事項

1. 学術集会における臨床倫理（倫理申請に関して）

荻野均会長 第5回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 演題に関して

第6回 日本肺高血圧・肺循環学会学術集会の演題登録に関して

承認済み、申請中、申請未実施、申請不要とするか？

研究倫理の問題は学会としての姿勢が問われるため、理事長が渡邊裕司先生と相談して検討する。

2. 2023年度の学術集会会長選出に関して

歴代会長

2016年度 第1回、佐藤徹（杏林大学、循環器内科）

2017年度 第2回、西村正治（北海道大学、呼吸器内科）

2018年度 第3回、瀧原圭子（大阪大学、循環器内科）

2019年度 第4回、渡邊裕司（浜松医科大学、臨床薬理学）

2020年度 第5回、荻野均（東京医科大学、心臓血管外科）

2021年度 第6回、土井庄三郎（東京医科歯科大学、小児科）

2022年度 第7回、桑名正隆（日本医科大学、膠原病内科）

2023年度の学術集会会長選出に関して、理事の中からの立候補（自薦）を求めた。江本憲昭理事、福本義弘理事の2名の自薦があった（以下に会長選出に関する抱負）。

理事会では、甲乙つけ難い、両名とも学術集会会長として適任である、年齢を考慮して決めてはどうかの意見があった。理事会後に無記名投票で決めることになった。2023年度の学術集会の会長に選出されなかった場合、次点候補は2024年度の学術集会会長としてはどうかとの意見があった。さらに他薦として、2025年度の学術集会会長として、松原広己理事が適任ではという意見があり、松原広己理事は他に引き受け手がなければ会長を考慮することになった。

本学会は、多領域の専門医の集団であり、循環器内科からの候補を3年連続とするのはどうか、循環器内科以外の領域の先生方の意見も聞くべきではないかと理事長の意見があった。

日本肺高血圧・肺循環学会学術集会の会長選出に関する抱負

神戸薬科大学 臨床薬学研究室

江本 憲昭

私は日本肺循環学会および日本肺高血圧学会の両学会それぞれの設立当初よりメンバーとして学会活動に参加させていただく機会を頂きました。その後、多くの先生方のご尽力により両学会が日本肺高血圧・肺循環学会へと統合し、本学会が発展する経緯を間近で体験し、多くの勉強をさせていただくことができました。

そのような背景を持った私が思い描く本学会の学術集会の理想像は、製薬業界団体の規制に伴い研究会等での議論に実質的な制限のある昨今の状況を踏まえ、純粹に科学的、臨床的な興味から先進的な取り組みを自由闊達に議論できる場であると考えております。具体的には、専門領域の異なる多くの分野の専門家が一同に会して議論し、専門性を高めることができること、さらにはオールジャパンの体制での共同研究を企画・遂行できる場を設けること、であります。特に自らのバックグラウンドである基礎研究に関しては広く異分野からの専門家をお招きして本分野においてブレイクスルーの後押しを期待できる企画を提供したいと考えています。また学会の重要な使命として、非専門医に対して適正な肺高血圧診療の裾野を広げることのできる教育的な企画を提供することも必須であると考えております。

浅学菲才の身ではございますが、理事会のご推挙を賜りましたら、皆様のお力添えを得て、学術集会の成功に全力を尽くしたいと存じます。

日本肺高血圧・肺循環学会大会長候補抱負

私は本学会の設立背景である「領域横断的な多施設連携による臨床、研究、教育体制の整備」を推し進めることを念頭に、2024年度日本肺高血圧・肺循環学会を開催したいと考えております。

本学会は、肺高血圧症診療の向上と確立、予後改善・疾患克服と政策構築を目標としています。これを受けて学術集会は、領域横断的に基礎～臨床～疫学研究を発表し、ひいては政策提言に繋がることを目的とすべきであると考えます。

また我々には継続的に後進を育成していく使命があります。医学会・医療会全体に言えることですが、変化に対する柔軟性や課題解決に導く若手の斬新な発想が必要です。本学術集会では、「領域横断的」という特徴を生かして若手が発表あるいは発言しやすく、未来へ繋がる学術集会にしたいと考えます。

2024年は医師の働き方改革が施行される初年度の予定です。以前より男女共同参画事業も行われており、このような社会的背景も考慮した多角的総合的な学術集会にしたいと考えております。